

21. ミナミキイロアザミウマとその近似種の分類学的検討 ならびに発生分布調査

農業環境技術研究所 環境生物部昆虫管理科

背景・目的

昭和53年に宮崎県下の野菜類に大きな被害をもたらしたアザミウマは、日本未記録の新害虫、ミナミキイロアザミウマ (*Thrips palmi* Karny) と鑑定され、はじめてその生態調査や防除のための研究を進める基礎を固めることができた。しかし、日本未記録種であり、また微小種のためプレパラート標本作製の技術を必要とし、文献類の不足もあって、種の識別は容易ではなかった。そこで、ミナミキイロアザミウマを始めとして、果菜類圃場に発生するアザミウマ類の種類を明らかにし、それらの種の識別法を確立するための研究を進めた。

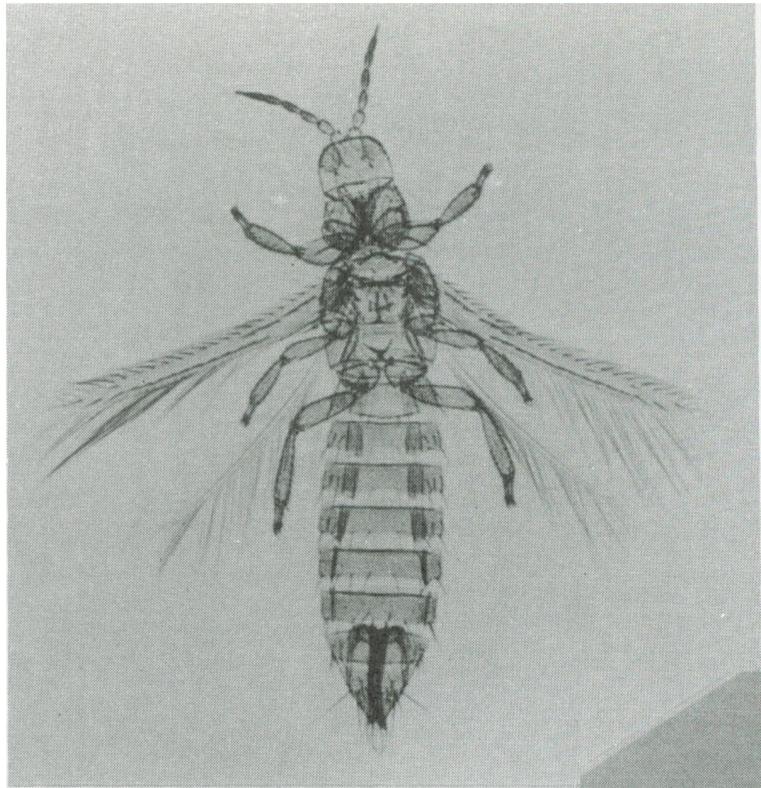
内容及び特徴

1. 果菜類およびその栽培圃場周辺の植物に発生するアザミウマ類20種を確認した。これらのうち、特に発生の多いものはミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ダイズアザミウマ、ダイズウスイロアザミウマである。
2. これら20種の成虫について形態的特徴を明らかにし、各種の識別を簡便にするため、検索表を作製した。
3. アザミウマ類の野外調査では、しばしば幼虫による種の同定が必要となるため、発生頻度の高い種類を主体として12種の幼虫を調査し、その識別を可能にした。
4. ミナミキイロアザミウマは日本国内における分布を急速に拡大し、現在沖縄を含む九州8県、四国4県、および山口、広島、岡山、兵庫、大阪、奈良、和歌山、三重、岐阜、愛知、静岡、神奈川、東京（小笠原）、千葉、茨城の各都府県で発生が確認されている。

活用面と留意点

1. 検索表により、種の鑑定を容易に試みることができる。
2. 微小昆虫であるため、プレパラート作成技術が要求される。

（宮崎 昌久）



写真（上）：ミナミキイロ
アザミウマ成虫。（下）：
同 2 齡幼虫。（いずれもプレ
パラート標本）

